

(議長)

次に、塚本議員の発言を許可いたします。

塚本議員。

「塚本議員」

はい。

私より、本定例会、3問の質問をさせていただきます。

まず第1問目ですが、今年の6月の末の、6月28日から30日にかけての大雨洪水対応についてであります。

これまで経験の無い、2日間で125mm等々の降水量等により、厚沢部川水位が氾濫危険水位に達したことから、流域の皆さんに対して、避難指示が町から出され、農作物への冠水等の被害は一部でありましたが、人的被害は幸いにもなかったということであります。

避難指示の翌日早朝には厚沢部川の水位も下がり、解除となりましたけども、この間、対策本部の設置時間の遅れや避難場所の変更、避難場所の対応、あるいは避難者数などに多くの私は、課題が見えて来たなというふうに思っております。今回の経験を踏まえて今後に向け、津波だけでなく、大雨による水害予防対策もしっかり進める必要があると考えています。このことに対する町の対応をお伺いいたします。

(議長)

はい。町長。

「町長」

塚本議員から、6月末の大雨に係る町の対応に関してご質問がありました。

大雨の状況や河川の状況、町の対応などにつきましては、7月27日の第5回臨時会で資料も添えながら行政報告させていただいておりますが、その中で、様々な課題が浮き彫りとなり、反省点も少なくなかったことに触れているところです。

議員がご質問で挙げられた点について申し上げますと、対策本部の設置に関しましては、厚沢部川の水位が氾濫危険水位に達した29日、6月29日午後2時10分に災害対策本部を設置したところでありますが、高齢者等避難及び避難指示などに関しては適宜対応したものと考えております。

また、避難所の変更についてでございますが、一旦開設した朝日町民体育館と水堀コミュニティセンターを閉鎖し、他の避難所をあらためて開設したことに関しましては、両施設は今回の降水量では、避難所として開設できる施設として防災計画に登載されておりますが、50年に一度の大雨を想定しているハザードマップでは開設できないとして×印がついている施設であったため、×印がついている施設への避難は、抵抗があるのではということ急遽変更したものです。しかしながら、住民の方々に混乱を生じさせたことから、反省すべき点でありました。

避難所の対応や避難者数についても、災害の状況などの情報周知や届けられる物資の情報をうまく提供できなかったこと、配置職員数の不足、建物の広さ以上に避難された方がおり、密な状態であったことなど、様々な場面で多くの課題があったことを痛感しているところでございます。

そういったことを踏まえ、津波だけでなく大雨による水害予防対策もしっかり進める必要があるとのご質問でございますが、町としては、その後、どのような課題や反省点があったかなどを、対策本部はもとより、従事した職員から集約をしており、今後、それらを検証しながら課題解決に努めていきたいと、現在、取り組んでいるところであります。

また、本年度は江差町地域防災計画の見直しを進めております。その見直しの中で、取りまとめた課題に対する対応をしっかりと進め、見直し後の計画に書き込めることができるよう努めて参ります。

また、防災計画見直し庁内検討会議において、防災危機管理アドバイザーを招聘し、先の大雨の課題、反省点を踏まえた講義を予定していることを申し添えてご答弁とさせていただきます。

(議長)

はい。塚本議員。

「塚本議員」

今回、幾つかの課題について列記しましたが、これ以外の課題も非常に多くあるのかなというふうに私自身も考えております。防災計画が、大きな防災計画の指針が新たに作られるというふうに伺っていますので、その中で、町内で十分協議をしながら、対策をしっかりと執っていただけるようにしていただければと思います。第1問目は以上で終わります。

2問目の近年のスルメイカ不漁対策についてであります。

江差町の過去におけるスルメイカ漁獲量によると、令和2年より極端に漁獲量が少なくなっております。平成時代には130トン程度の水揚げがあったものが、令和2年ではもう70トンを切っていると。今年度は更にそれを切るんじゃないかというふうに、非常に危惧をしている訳であります。

江差町では、育てる漁業への支援をしてきていますが、スルメイカで生計を立てている漁業者も多く、深刻な状況となっております。不漁の原因は、イカの資源の減少や海水温の変化など多岐にわたると思われませんが、漁業者の声を聞くと、漁場でマグロの大群がいて、漁の妨げになっているということも伺っていますが、逆にこれらのマグロの対策として、檜山エリアのマグロ漁、これは国の枠もある訳ですが、行政だけじゃなくて、漁協との、漁業関係者だけで、なかなかこの枠を大幅に増やすというのは難しいと私は考えておりますが、檜山管内の町長会も含めて行政も一丸になって、この枠の拡大に向けて、檜山でもマグロによる漁業者の所得補完できるような対策が何とかできない

かなというふうに思っております。これについて、お伺いたします。

(議長)

はい。町長。

「町長」

塚本議員からの、近年のスルメイカ不漁対策に関するご質問にお答えをいたします。

江差町の主力魚種のひとつであるイカ漁につきましては、議員ご指摘のとおり、日本全体における資源の減少に加え、海水温の上昇等の影響を受け、近年不漁が続いており、イカ漁を主とする漁業者にとっては、苦しい経営環境にあるものと推察しております。

また、塚本議員からは、これらの要因に加え、マグロによる漁業被害も一因ではないかのご指摘と、これら有害であるマグロを新たな主力魚種の一つとしてみては如何かのご質問であります。

はじめに、マグロによる漁業被害につきましては、この間、漁業者より集魚灯に引き寄せられたマグロにより、イカが散るように逃げてしまう。あるいは、マグロに釣り針が壊されたなどの声が寄せられております。このため、ひやま漁業協同組合では、本年度より、マグロ被害の実態を把握することを目的に、各イカ釣り漁業者に対し、被害状況を記録する日誌を携行させたところであり、これらの取りまとめをもって、北海道などの関係機関とその対応について、協議を行うこととしております。

次に、マグロを新たな主力魚種の一つとしてみては如何かのご質問でございますが、議員ご承知のとおり、2015年からマグロは国際管理下のもとで日本の漁獲枠が設定され、漁業法等に基づき各都道府県に漁獲可能量TACを配分、さらに都道府県はTAC数量管理委員会を設置し、道内各地区に漁獲枠を配分するといった重層的な仕組みとなっております。

令和4年の檜山地区の配分枠ですが、2トン弱と決して大きな枠となっていないことから、この間、ひやま漁協としても、機会あるごとに枠の引き上げを要望していると伺っています。

このように、新たな主力魚種とするには、一定の枠の確保が必要であり、私自身も、行政として執れる行動の中身を検討して参りたいと考えておりますのでご理解いただきたいと思っております。

(議長)

はい。塚本議員。

「塚本議員」

町長答弁にあった檜山の枠が2.3トン。渡島の枠が352トン。非常にこの格差がある。これは、マグロ漁の歴史によるものだと思いますが、簡単に増えるとは思いません

んが、管内を挙げてね、この枠の拡大に行政の方も力を尽くしていただきたいと思ひまして、2問目、終わります。

続いて、3問目ですが、ヒグマ対策についてであります。

年々、ヒグマの出没回数が非常に増えて、一般町民や農業者にとっても大きな課題となっております。ヒグマの捕獲は、先日も田沢の方でビートの作付け地で捕獲されておりますし、檻による捕獲が一定程度の成果を上げているというのは、私も十分認識しておりますが、町民や農業者の不安の解消には、完全に至っていないという状況にあります。

ヒグマは夜間行動の習性があり、出没の実態を把握することは非常に難しい。そこで、過去に出没したり、又はヒグマの餌となり得る農作物の栽培されている箇所に無人カメラ等を設置して、ヒグマの駆除や被害の防止対策として有効に活用する手段があるのかと思ひます。

なかなか、檻をすべての危険箇所に配置するというのは非常に難しいので、ヒグマの行動実態をきっちり、これは、道で把握しながら、有効的に再度また檻の数を増やす、あるいは設置場所を、しっかり、捕獲しやすい場所を設置する。こういうことで、私からもこういう提案をさせていただきたいと思ひますので、町のお考えをお伺ひいたします。

(議長)

町長。

「町長」

塚本議員から、ヒグマ対策に関するご質問をいただいております。

はじめに、道南におけるヒグマの生息につきましては、北海道立総合研究機構の道南地区野生生物室において、調査が継続的に進められており、北海道全体として、ヒグマの個体が増加傾向にあることが確認されております。

江差町においても、ヒグマの目撃や痕跡が、年々、増加傾向にあり、特に市街地においては、家庭菜園の作物の食害など、人家の近くまでヒグマが出没している状況であります。

このため、町では、付近の皆さんに町内会を通じて、注意喚起のチラシを配布するとともに、これらの情報を町ホームページに掲載、更には、町の公式LINEを活用し、町民に情報提供するなど、被害の未然防止に努めているところです。

塚本議員から、無人カメラを設置してヒグマの生息を調査し、それをもとに駆除や被害の防止対策に繋げてはどうかのご提案がありましたが、まずもって、ヒグマは行動範囲が広いことから、その必要性について、町の有害鳥獣実施隊員などの皆様とも議論してみたいと思ひますし、設置場所によってはプライバシーなどの問題も生じる可能性があることから、慎重に検討を重ねて参ります。

いずれに致しましても、ヒグマ被害の防止対策にあたっては、人命への危険防止を最

優先に、今後も北海道や江差警察署、猟友会などの関係機関と連携を図りながら対応してまいりたいと考えておりますので、ご理解の程、よろしくお願いいたします。

(議長)

はい。塚本議員。

「塚本議員」

最近のテレビ等、札幌市内でも防犯カメラに熊が映っているのが見える。そういうことによって、事前に危険な状況を回避するとか、巡視活動を強化するという活動に非常に有効に使われているということもありますので、今後、それらの会議の中で、十分、協議して、これらの手法についても検討していただきたいと思います。

以上で、終わります。

(議長)

答弁、必要。

「塚本議員」

なし。

(議長)

いない。

はい。以上で、塚本議員の一般質問を終わります。